

令和元年度広島県特別支援学校教育研究会事業報告

1 会員数 (1, 121 名)

2 研究の目的

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、学習上又は生活上の困難を改善・克服するため、適切な指導や支援を行えるよう専門性の向上を図り、今後の特別支援教育の一層の充実を図る。

3 研究主題

幼児児童生徒を基点とする能動的で深い学びの推進

4 活動内容

(1) 総会の実施

令和元年 5 月 22 日 (水) 広島県立広島西特別支援学校

- ア 平成 30 年度事業・決算報告
- イ 令和元年度役員選出
- ウ 令和元年度事業・予算計画

(2) 教育研究大会の実施

令和元年 12 月 26 日 (木) 広島県民文化センター

- ア 研究発表
研究校 4 校による教育課程別の研究及び研究発表
- イ 研修報告
平成 30 年度広島県立教育センター教員長期研修生 3 名による研究成果報告
- ウ ポスター・展示発表
研究発表校を除く各校(分校・分級・分教室を含む)によるポスター及び展示発表
- エ 講演
演題「共生社会の形成に向けた地域協働活動の推進とカリキュラムマネジメント
ー主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえてー」
講師 弘前大学大学院教育学研究科 教授 菊地 一文 氏

(3) ホームページ等による情報発信

5 研究成果

本研究会は平成 12 年度に発足し、令和元年度で 20 年目の活動となった。発足当時は障害種別に 5 部会に分かれて研究活動を推進していたが、平成 17 年度から各部会を統合し、研究会全体の研究主題を設定し、特別支援教育における今日的課題から研究テーマを設定し、グループ研究により、研究活動を推進してきた。研究大会においては、平成 28 年度までは、グループ別の研究発表のほか、ポスター発表や特色ある取組について学校企画発表を行ってきた。





こうした中、平成 29 年度には特別支援教育に係る国の動向や、広島県の施策、学習指導要領改訂の趣旨等を踏まえ、研究主題や研究体制を一新した。令和元年度は、広島版「学びの変革」アクション・プランの全県展開 2 年目となり、各校では「主体的な学び」を促す教育活動を推進していることから、研究大会においては、昨年度に引き続き、研究主題を「幼児児童生徒を基点とする能動的で深い学びの推進」と設定し、教育課程別に 4 校の特別支援学校からの研究発表、他の特別支援学校によるポスター・展示発表、さらには平成 30 年度広島県立教育センター教員長期研修生の研究報告も行い、研究成果を多くの会員と共有することで、専門性や実践力の向上を図り、本県の特別支援教育の充実・発展につなげていきたいと考えた。また、昨年度に引き続き、弘前大学大学院教育学研究科 教授 菊地 一文 氏をお迎えし、「共生社会の形成に向けた地域協働活動の推進とカリキュラムマネジメントー主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえてー」と題して御講演をいただいた。

このように令和元年度は、本研究会や研究大会が各校の実践や研究成果を共有する場となるとともに各校の広島版「学びの変革」アクション・プランの推進や新学習指導要領に基づき、「主体的、対話的で深い学び」に向けた更なる専門性の向上の一助となったことが成果として挙げられる。さらに新学習指導要領の理解と実践につながることを確認することができた。関係者並びに会員等から頂いた意見やアンケートでは、おおむね高い評価を受けることができた。

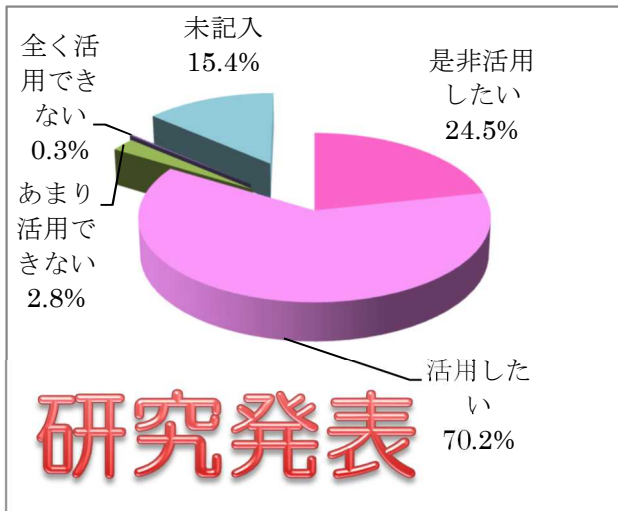
令和元年度広島県特別支援学校教育研究大会 実施報告

- 1 日 時 令和元年 12 月 26 日（木） 9：45～16：30
- 2 会 場 広島県民文化センター
- 3 参加者 480 名／会員数 1,121 名（参加率 43%）
- 4 教育研究大会内容及びアンケート結果（アンケート回収数 319 枚 回収率 66%）

（1）研究発表

	学校名	研究テーマ	
①	呉南特別支援学校	<u>幼児児童生徒の思考力を育むために</u>	
②	三原特別支援学校	<u>三原特支『付きたい力』を目指した授業づくり ～チームの強みを生かした授業研究～</u>	
③	黒瀬特別支援学校	<u>児童生徒一人一人の「働く」生活を目指した授業づくり ～主体的な学びを促進する授業づくりの探求～</u>	
④	西条特別支援学校	<u>主体的に学ぶ児童生徒を育む授業づくり 3年間の取組</u>	





アンケート結果からは是非活用したい又は活用したいとの回答は、記入者全体の94.7%であった。

また、「新学習指導要領等を根拠としながら、様々な工夫が考えられている。」「児童生徒に付けたい力を明確にして取り組んでいた。」「思考力を育むための具体的な手立てを知ることができた。」「達成感を子供にもたせることが主体性を引き出すことにつながる。」等の意見があった。

教育課程別の研究発表を行うことにより、各校の実践及び取組状況が分かりやすく示

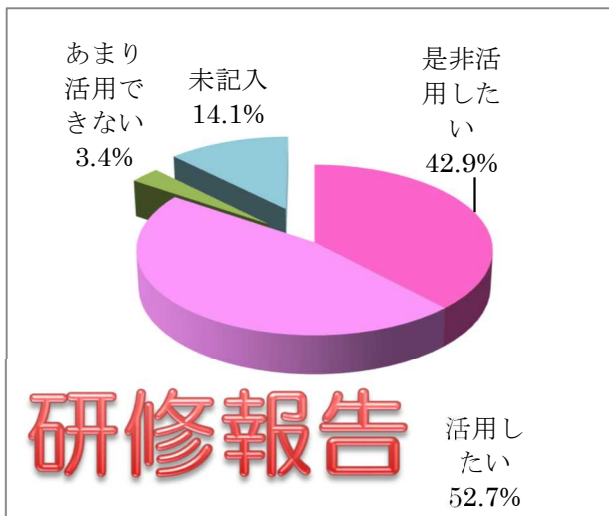
されていた。

(2) 研究報告

平成30年度広島県立教育センター教員長期研修生研究成果発表

	学校名	研究テーマ
①	福山北特別支援学校 教諭 渡邊 樹	<u>知的障害のある児童の読みの流暢性を高める指導の工夫</u> <u>-多層指導モデルMIMの活用を通して-</u>
②	福山北特別支援学校 教諭 青垣 和也	<u>知的障害のある生徒の外国語科における</u> <u>やり取りする力を育む指導の工夫</u> <u>-非言語コミュニケーションを取り入れた言語活動を通して-</u>
③	呉特別支援学校 江能分級 教諭 平川 真衣	<u>知的障害を伴う自閉症のある生徒の対人場面における</u> <u>思考力・判断力・表現力等を高める指導の工夫</u> <u>-ソーシャルシンキングの考え方を取り入れたプログラムの活用を通して-</u>





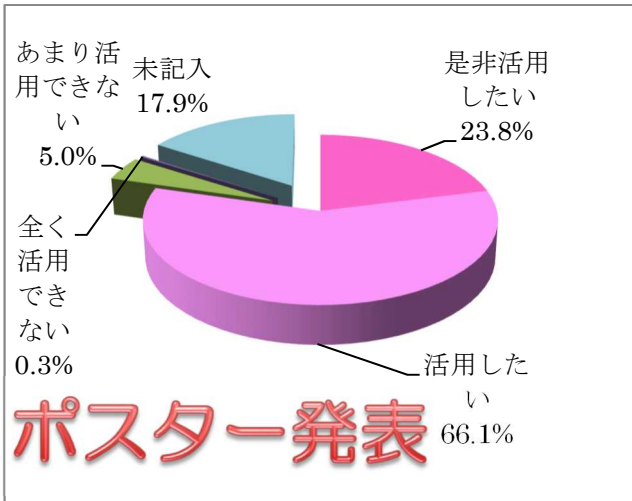
広島県立教育センター教員長期研修生の研究成果発表については、平成 29 年度から行っている。

アンケート結果から、是非活用したい又は活用したいとの回答は、記入者全体の 95.6% であった。

今年度は、また「理論と実践を聞くことができ、勉強になった。内容をそのまま日々の指導に生かすことが難しくても、レベルの高い教育実践を聞くことができ、やる気になった。」等、肯定的な意見が多く、長期研修生の発表を共有できたことは成果があったと考える。

(3) ポスター発表

	学校名	タイトル
①	広島中央 特別支援学校	視覚障害児の思考力を育てるための対話的な学びを中心とした 授業づくり
②	広島南 特別支援学校	聴覚障害教育の実際
③	尾道特別支援学校	主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくり ～障害に応じたICTの活用と指導・工夫を通して～
④	尾道特別支援学校 しまなみ分校	障害に応じたICTの効果的な活用方法と指導・工夫
⑤	県立広島 特別支援学校	主体的な学びを引き出す基盤を大切にした授業づくり 肢体不自由部門：指導すべき課題の整理に焦点を当てて 知的障害部門：障害特性に応じた環境整備に焦点を当てて
⑥	福山特別支援学校	「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト」を活用した 授業改善のAPDCAサイクルの構築と今年度の取組みについて
⑦	広島西 特別支援学校	児童生徒の主体的な学びを促す授業づくり
⑧	廿日市 特別支援学校	指導略案を活用した教育課程の改善
⑨	福山北 特別支援学校	コミュニケーション能力を活用する児童生徒の育成 ～かかわり合う授業づくりを通して～
⑩	三原特別支援学校 大崎分教室	「自立と社会参加をめざした授業づくり」 ～考えて動く力の育成～
⑪	呉特別支援学校	児童生徒が、自ら考え、学びたくなる授業づくり（三年次） ～児童生徒一人一人の学習評価を通して～
⑫	呉特別支援学校 江能分級	切れ目のない教材・教具の開発
⑬	庄原特別支援学校	地域社会と連携した実践的学習 ～高等部の校内・校外での販売活動を中心に～
⑭	広島北 特別支援学校	ストーリー性のある単元・授業づくりの在り方 －児童生徒の主体的な学びを実現するために－
⑮	沼隈特別支援学校	チャレンジと振り返りを通して『次への意欲』を育む授業づくり ～『やってみよう!』『よし、やるぞ!』という姿を目指して～
⑯	黒瀬特別支援学校 安浦分級	安浦分級閉級!!本校生徒との協働学習の機会の確保 ～ICT機器(ipadとkubi)を活用した遠隔授業～
⑰	市立広島 特別支援学校	主体的・対話的で深い学びを目指し、 思考を支える「ことば」の力を育むための授業づくり －「ことば」のイメージを広げ、深めよう－



アンケート結果から、是非活用したい又は活用したいとの回答は、記入者全体の89.9%であった。

また、「実態把握に基づいて教育内容づくりに尽力されていることが分かり、参考になる資料も多くあった。」「各校の学びの変革アクションプランの取組について知ることができた。」「支援具の実践例や授業づくりの考え方を知ることができた。」等、肯定的な意見が多かった。

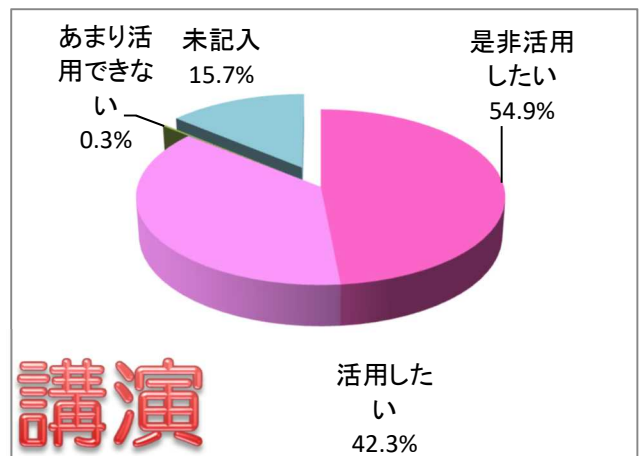
他校の研究の様子や提示された具体的な教材から、各自の実践につながる多くのヒントを得ることができたものとする。

さらに今回から、研究発表校以外の全校による発表としたことで、各校の状況を見比べたり、自校の実践を振り返る機会にもなったと考えられる。

運営面では、見学の混雑を避けるため、入場者を2つに分けて実施したことや発表校のスペースを大きく取ったことについては、「発表内容が分かりやすかった」との感想が多く、効果的であったと考えるが、昼食休憩と同時進行のため、「十分にポスター・展示発表を見られなかった。」との感想もあった。

(4) 講演

演題 「共生社会の形成に向けた地域協働活動の推進とカリキュラムマネジメント
 —主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえて—
 講師 弘前大学大学院教育学研究科 教授 菊地 一文 氏

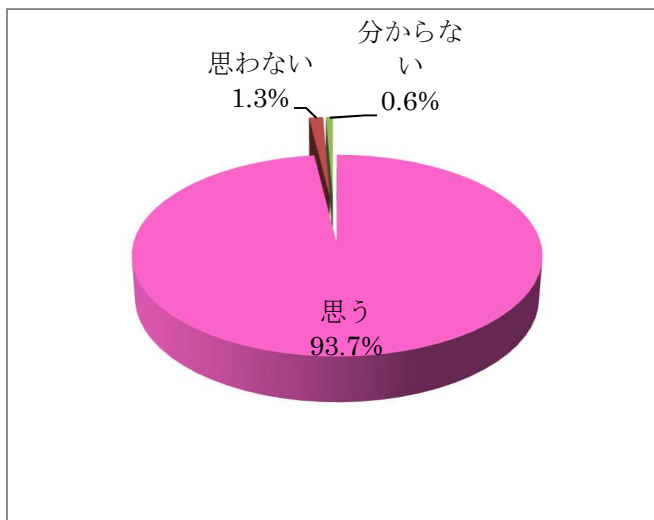


アンケート結果からは是非活用したい又は活用したいとの回答は、全体の 97.2%であった。

「対話の大切さ。日々生徒と係る中で対話から学ぶ。しっかり向き合うことを改めて感じた。」「子供の学びの様子をたくさん紹介していただき、学びの過程にも学ぶことが多くあった。」「キャリア教育について大切にしたい3つのポイント(視点)について活用していきたい。」など感想があった。

また、「新学習指導要領を踏まえた授業づくりを進める上で、改善すべき部分のヒントを得た。」との感想もあり、各現場で日々の実践をする上で大切なことは何かを考えるヒントや、具体的にどうするかを参加者自身が考えることのできる内容であったと考える。

(5) 新学習指導要領への実践



今年度のアンケートを取る際に『新学習指導要領』を踏まえ、関連の項目を設けることとした。

本研究大会が、『新学習指導要領への実践』につながるかどうかの質問に対しては、「思う」との回答が、93.7%であった。

各項目の中にも『新学習指導要領』との関連が出されているが、「他の学校の実践例を聞くことにより、改めて指導要領を見つめなおし、より理解し、実践することができる。」という意見に代表されるように全体として今回の研究大会が、その実践につながるとの実感を多くの参加者から得ることができた。

5 全体を通して

今後に向けて、会全体に関する意見等をみると「発表する人以外は受け身になりやすい。アクティブラーニングの要素を取り入れてほしい。」「ポスター発表を全てを見ることができなかったので、どこかのHPで各校の発表内容が閲覧できるとよい。」「研究発表についての助言が聞きたい。」等、会の運営方法の工夫を求める声もあった。研究大会をより良いものにしたいという意味での御意見をいただいた。

また、今回は、事務局校のみならず、複数校での大会運営だったこともあり、運営面での課題も見付けることができた。

何より、「この大会に参加しよう」と思った会員が「参加してよかった」と思える内容を提供できたことがアンケートから把握できたことは、県内のすべての特別支援学校で「主体的・対話的で深い学び」に向けた教育実践に寄与できたという点で効果があったと言えるのではないかと。大会を継続する中で、さらに「県内の特別支援学校において『新学習指導要領の全面展開』に向けた取組が進化すること」が期待できる。